

## ルール改正案はどうなったか。

世界バドミントン連盟（BWF）では、数年前からいくつかのルール改正を模索していました。主なものは次の2点です。

- 1 11点5ゲーム制（スコアリングシステム）
- 2 サービスの時、ラケットで打たれる瞬間のシャトル全体の高さ（正しいサービス）

1は、試合時間の短縮とテレビCMの時間帯を確保のための案でしたが、昨年5月にタイで開催されたト杯・ユ杯大会時の理事会で、現行の21点5ゲーム制を踏襲することになりました。

11点ゲームは近年の戦績において、アジア優勢の潮流からパワーのあるヨーロッパ勢からの要望があったと思われるが、2020年の東京五輪が近づいている時、賢明な決断だったと歓迎されています。

2は、「シャトル全体がコート面から1.15m以下でなければならない」ということになり、国際大会では既に実施されています。（なお、シャフトが下向きの条件は削除されました。）

従来のウェスト（肋骨の一番下の部位）は、サーバーの体格によって、まちまちであったのが、1.15mと規定されてよかったと思います。

また、ヨーロッパ人に比べて身長の高いアジア人には有利な規定となるでしょう。

そして、1.15mを判定するための測定器（デバイス）が開発されています。

2本のポストの上部に、2枚の透明なプラスチック板を直方体状に取り付けて、それぞれの板にコート面から1.15mの位置に直線を描いたものです。

（写真は、直近の国際大会の時のものです。JSPORTSの放映から借用しました）

サービスジャッジは、自分の目をコート面から1.15mの高さに置いて2本の直線を重ねて判定しなければなりません。



測定器の設置が間に合わない時は、その代わりに、ネットを張ったポストにコート面から1.15mのところに目印をつけるとかの工夫が必要です。

国内大会でも、今年4月以降採択される予定ですが、困ったことに国内大会では、サービスジャッジが付かないのが普通です。この時は、主審がどのように判定するかが課題になっています。ウェアに線を引くとかの案にあったそうですが、かかとを上げると無意味だと一蹴されたようです。

小学生大会でも、困難が待ち構えています。（加筆）

その他、以下の事項が確認されています。

試合時間の短縮のため、試合開始前の練習時間の規定、および試合中ラケット交換時の試打は禁止組み合わせ（ドロー）の国別分離は行わない。

すなわち、1回戦から同国同士の対戦がある。

世界ランキングの公示が、毎週木曜日から火曜日に変更とする。

参考 バドミントンマガジン 2018年7月号、2019年2月号、3月号

以上